

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

工学部

部局長名：

富田 栄二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>「教育の実施体制について」</p> <p>(1)工学部共通コア科目を継続実施し、内容についても引き続き改善を検討</p> <p>(2)工学教育外部評価委員会の継続開催と指図書事項の改善検討</p> <p>(3)岡山県工学教育協議会に参加し、工学教育に関する検討</p> <p>(4)女性教員の増加(目標6名)および外国人教員数の増加(目標57名,うち外国籍7名)</p> <p>(5)ヒアレビューの継続実施</p> <p>(6)授業方法等の模範事例の提供(ベストティーチャー賞受賞者の取り組み事例紹介、受賞者の授業参観機会の提供)</p> <p>(7)表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)の継続実施</p> <p>「教育方法・内容について」</p> <p>(1)H28年度からの60分、4学期制導入に関する問題点への対処</p> <p>(2)経済学部との協力による合同科目「実践的コミュニケーション論」、「ものづくり経営論」を継続開講</p> <p>(3)企業等からの非常勤講師による実践型教育を継続</p> <p>(4)パソコン必修化のための授業内容検討</p> <p>(5)教育年報の発刊</p> <p>「学生の成果(学習の成果、卒業後の進路)について」</p> <p>(1)種まねれ例を除き卒業生全員を大学院進学(約2/3)および就職させること</p> <p>(2)Q-camを利用した学生の達成度評価のための傾向分析とデータ蓄積</p> <p>「学生支援について」</p> <p>(1)学生フォーミュラ、ロボコン研究会活動への支援</p> <p>(2)就職支援活動「機械系エンジニアの歩き方」「卒業生との就職意見交換会」の継続実施など、各学科での就職支援強化</p> <p>(3)学部留学生との懇談会開催</p> <p>「国際共同による教育の状況について」「外国人留学生の受入状況について」(各自あるいは研究科と協力して実施)</p> <p>(1)学生受入促進(同済大学および浙江工業大学と、岡山での夏季セミナー開催)</p> <p>(2)短期研修生(インドネシア大学ほか)および特別聴講学生の受入(韓国のChang Won Universityほか)</p> <p>(3)学部および大学院留学生および研究生受入の増加</p> <p>「その他」</p> <p>入試広報に力を入れる(オープンキャンパスで女子生徒を対象としたプログラムの実施、フロンページ主催の夢ナビプログラムへの参加、国立大学54工学系ホームページの充実による岡山大学工学部としての情報発信、母校訪問や工学部独自の出前講義をはじめとする高大連携事業での学生の派遣、岡山県内高等学校理数科教員との懇談会、高等学校進路指導担当教諭との懇談会、岡山大学と工業系高校との教育懇談会、学科独自の高校教員との懇談会開催など)</p>	<p>左記の目標は いずれも実施、達成された。 以下は補足である。</p> <p>「教育の実施体制について」</p> <p>(7)3月1日開催の教員会議にて、教育貢献賞では5名、1グループを表彰し、ベストティーチャー賞では12名をそれぞれ表彰した。</p> <p>「その他」</p> <p>国立大学54工学系ホームページに岡山大学工学部から、「環境への取組み」・「おもしろ科学実験室」・「大学教授の声」の計3本の記事を掲載したことが、岡山大学工学部としての情報発信の実績に挙げられる。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-2 大学全体への貢献
<p>(1)志願倍率(学部入試倍率・前期日程)の目標を2.3倍とする。 (平成24、25、26、27、28年度は2.6、2.2、2.3、2.4、2.1倍であった。H29年度入試は過去5年の平均値である2.3倍を目指したい)</p> <p>(2)稀な例を除き、ほぼ全員、就職および進学させる。</p> <p>(3)女性教員の増加(目標6名)および外国人教員数の増加(目標57名,うち外国籍7名)。</p> <p>(4)学部生、大学院生、特別聴講学生その他留学生全て合わせて、自然系(理、工、大学院)として272名の受入目標。</p> <p>(5)日本人の海外派遣学生数は、自然系(理、工、自然科学研究科)として81名を目標。</p>	<p>(1)女性教員数は目標を上回って達成することができ、外国人教員数も目標を上回って達成することができた。</p> <p>(2)短期研修生の受入は118名と大幅な増加となり、SGU目標達成に貢献した。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>(1)入試倍率(前期日程)は2.0倍であった。目標を下回ったものの、学部として2.0倍を維持することができた。</p> <p>(2)稀な場合を除き、ほぼ全員、就職および進学させることができた。(進学率は64.8%、就職率は94.9%)</p> <p>(3)女性教員数は7名になり、目標(6名)を上回って達成することができた。外国人教員数は62名、うち外国籍は7名となり、目標(外国人教員数57名,うち外国籍7名)を上回って達成することができた。</p> <p>(4)自然系(学部、大学院)で272名の受入目標に対して、296名を受け入れ、超過して達成することができた。平成27年度の235人から296名と26%の増加となった。</p> <p>(5)日本人の海外派遣学生数は、自然系で81名の目標に対して、79名(GPカウント分は除く)を派遣し、ほぼ目標値通りとなった。平成27年度の15名から79名へと5.3倍と大幅増加となった。</p>	<p>(1)入試倍率(前期日程)は2.0倍であった。目標を下回ったものの、学部として2.0倍を維持することができた。</p> <p>(2)稀な場合を除き、ほぼ全員、就職および進学させることができた。(進学率は64.8%、就職率は94.9%)</p> <p>(3)女性教員数は7名になり、目標(6名)を上回って達成することができた。外国人教員数は62名、うち外国籍は7名となり、目標(外国人教員数57名,うち外国籍7名)を上回って達成することができた。</p> <p>(4)自然系(学部、大学院)で272名の受入目標に対して、296名を受け入れ、超過して達成することができた。平成27年度の235人から296名と26%の増加となった。</p> <p>(5)日本人の海外派遣学生数は、自然系で81名の目標に対して、79名(GPカウント分は除く)を派遣し、ほぼ目標値通りとなった。平成27年度の15名から79名へと5.3倍と大幅増加となった。</p>
②研究領域	自己評価
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>「外部研究資金等の獲得の推進」として、以下を継続実施する</p> <p>(1)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報:H25年度分から教員評価システムとリンクさせている)</p> <p>(2)教授会での外部資金獲得状況の報告(毎月)</p> <p>(3)科研申請状況の把握と申請の依頼</p> <p>(4)科研申請の支援(研究科と協力して実施)</p>	<p>左記の事項は、すべて実施した。</p> <p>「外部研究資金等の獲得の推進」</p> <p>(1)さらに、英文研究概要に関しては、工学系だけであるが、冊子100部およびpdfを作成し、海外からの来訪者に配布した。</p> <p>(5)3月1日開催の教員会議にて、研究功績賞では8名を表彰した。</p> <p>「女性・外国人研究者の受入状況について」</p> <p>女性教員数19人、外国人研究者数23人であり、平成27年度よりも少なくなかった。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 大学全体への貢献
<p>(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。</p> <p>(2)科研新規採択率30%以上を目指す。</p> <p>(3)科研以外の外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学寄附金)額は過去5年平均値の5%増加を目指す。</p>	<p>(1)科研申請率は特別な理由がある教員を除いて100%であり、目標を達成している。しかし、科研新規採択率は23.8%であり、大学本部の設定した目標は達成することはできなかった。例年、同程度である。</p> <p>(2)科研以外の外部資金額は、過去5年平均値の2%増となり、5%の増加とはならなかったが件数では7%増となり、全学へは間接経費の点で貢献している。</p>
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>(1)科研申請率は特別な理由がある教員を除いて100%であった。</p> <p>(2)科研新規採択率は23.8%であり、大学本部の設定した目標は達成することはできなかった。</p> <p>(3)科研以外の外部資金額は、過去5年平均値の2%増となり、5%の増加とはならなかった。ただし、件数では7%増となった。</p>	<p>(1)科研申請率は特別な理由がある教員を除いて100%であった。</p> <p>(2)科研新規採択率は23.8%であり、大学本部の設定した目標は達成することはできなかった。</p> <p>(3)科研以外の外部資金額は、過去5年平均値の2%増となり、5%の増加とはならなかった。ただし、件数では7%増となった。</p>

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>「海外の大学との交流事業の推進」として以下を実施する。</p> <p>(1)ミャンマーとの連携について、関連他大学とともに推進(研究科と協力して実施)</p> <p>(2)杭州市内と岡山県内の地域の小学生向け体験型実験教室の開催</p> <p>(3)中国赴日留学生教育の実施(研究科と協力)</p> <p>(4)同済大学、インドネシア大学、浙江工業大学等と学生の交流をする。また、以下を継続実施する。</p> <p>(1)地域の小中学生向けの工学実験教室の開催</p> <p>(2)産官学が連携した研究会の事業(岡山情報通信技術研究会など多数)</p> <p>(3)国立大学54工学系学部長会議下の大学連携推進委員会に協力</p> <p>(4)表彰(社会貢献賞)の実施</p> <p>(5)高島屋における夏季フェアの実施</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>「海外の大学との交流事業の推進」海外の大学との交流に関しては左記以外にも多くの交流を実施した。</p> <p>(1)ミャンマー-工学教育拡充プロジェクトの実施: 博士後期課程学生としてミャンマーの大学教員8名を受入れ、学位取得に向けた研究指導を行うとともに、研修のためミャンマーの大学教員2名を受入れ、各研究室で指導を行った。(9月末からの約1ヶ月間) また、延べ6人の教員を現地開催の短期行事(教員研修、国際会議講演、研究指導支援等: 開催地ヤンゴン工科大学等)へ派遣した。</p> <p>「その他」</p> <p>(1)地域の小中学生向けの工学実験教室の開催: 地域の小中学生に科学の魅力を知ってもらうため、工学実験教室などを年に7回開催し、延べ991名が教室に参加した。</p> <p>(2)岡山情報通信技術研究会の開催(産官学の連携): 岡山における技術力の向上を目指すため、約2ヶ月毎に開催する岡山情報通信技術研究会に、産業界、県、岡山市、本学から毎回約30名以上が参加し、情報通信技術について意見交換を行った。</p> <p>(4)表彰(社会貢献賞)の実施: 3月1日開催の教員会議にて、4名、1グループを表彰した。</p> <p>(5)高島屋における夏季フェアの実施: 「サイエンス実感フェア2016」として岡山大学工学部と日本化学会中国四国支部が共同で行い、8月20日から22日までの3日間、小学生を中心に延べ1649名が参加するなど、社会に対して理工系分野の魅力を発信した。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>特になし</p>	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>国際交流に関しては、留学生の受入および日本人学生の派遣ともに、大幅な増加となり、SGU目標に多大な貢献をした。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>特になし</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>国際交流に関しては、いろいろなプログラムの実施によって、かなり積極的に教員、学生ともに交流を実施した。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>(1) 志願倍率(前期日程)は、目標(2.3倍)を下回った。工学部全体では2.0倍であったが、その原因分析を行い、来年度の活動に反映したい。</p> <p>(2) 科研の申請率は目標を達成できたものの、本部の示す採択率は目標を達成できなかった。研究科と協力し、改善していきたい。</p> <p>(3) 共同研究、受託研究、奨学寄附金等の外部資金獲得額については、過去5年間平均の5%増の目標を達成できなかったものの、過去5年間平均よりも増加している。今後もさらにして増えるようにしていきたい。</p> <p>(4) 目標として記載した項目以外に、海外からの受入および派遣は積極的に実施した。</p>	